

第2回東大阪市総合計画審議会 会議録

■概要

会議名称	第2回東大阪市総合計画審議会
日時	平成31年1月25日(金) 10:00~12:00
場所	東大阪市本庁舎1階多目的ホール
議題	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議事案件 案件1 第1回審議会以降の取り組みの報告 案件2 基本構想の骨子素案について 案件3 重点施策の方針について 案件4 今後のスケジュールについて
出席者	(東大阪市総合計画審議会委員) 森田委員、安田委員、◎石田委員、森(優子)委員、富田委員、 衣笠委員、河邊委員、田間委員、高畑委員、住山委員、 茨木委員、田中委員、濱谷委員、○松浦委員、中井委員、 森(雅声)委員、濱橋委員、阪口委員、堤委員、北井委員、 ○川口委員、立花委員、鈴木委員、田野島委員、野口委員 欠席：猪野委員、大久保委員、坂本委員 (◎…会長、○…副会長)
	(事務局) 経営企画部 松本部長 経営企画部企画室 竹本室長、谷主査、樋野主査、前田主任、 森井係員
会議の公開/ 傍聴人の数	公開/傍聴人1名

■議事(要旨)

案件1. 第1回審議会以降の取り組みの報告

- 質疑なし

案件2. 基本構想の骨子素案について

- 学力調査、進学で悪い結果が出ている。犯罪も上位3番目であり、非常に残念だと思う。【委員】

- 安全・安心に関する課題として、治安、防犯的な観点で書かれていると思うが、重点施策でそれが表に出ていないが、どうなのか。【委員】
⇒安全・安心は、今後人口減少が進んでいく中で活気を生み出していくため、若者、子育て世代に選ばれるまちを作っていく、高齢者が元気で生活できるまちを作っていくという、重点施策の方針として打ち出しているどの項目においても、欠かせないキーワードであると考えている。そのため、市としては着実に手を打つべき課題として盛り込むものと考えている。【事務局】
- 将来都市像について、第2次総合計画の将来都市像を引き継ぐということで、「活力」というキーワードは共感できるが、「夢」は少し具体性に欠けるのではないか。【委員】
⇒将来像について、人口が減って、財政も厳しく、なかなか華々しいことを記載することは現実的に難しいと思うが、モノレールの南伸が決まり、大阪万博会場へ地下鉄中央線1本でつながるなど、追い風に乗って、何かできるところはないのかと思っている。市単独で頑張るのは正直難しいが、いかに民間や市民の方々と同じ思いを共有して、一緒に頑張れるかという部分が大事だと思っている。元気な高齢者や女性の活躍により、皆が少しずつ協力し合うことで生活がよくなるというようなことを夢として描ければと思っている。【事務局】
- 夢というのはいいい言葉だが、実現する気がないことも含まれているのかと感じてしまう。総合計画は方針を示すものなので、実際に夢的なものも含まれていて良いと思うが、少し夢を言い換えた言葉で現実感を出したほうが、単なる絵空事ではないと思えるのではないか。【委員】
- 夢というのはある意味で抽象的であり、具体的な施策の中に入れるものではないのかもしれないが、その辺は議論されたか。【委員】
⇒具体的に何か施策としてこういうものを打ち出そうというところまでは、まだ議論が至っていない状況である。【事務局】
- 将来都市像だが、「東大阪」を別の市に変えればどこでも通用するので、もう少し特徴を出せないか。モノレールが通り、高速道路のジャンクションもあるため、ある意味では大阪の中心ではなく、近畿の中心になるかもしれない。そういった特徴をぜひ考えたほうがいいのかなど、それが夢につながるのかなと思っている。【委員】
⇒確かに近畿の中心、交通の利便性に優れているという部分はあると思うので、そういう特徴を打ち出していったらいいと思っている。【事務局】
- 夢の部分が問題になっているが、20年前にこの都市像を掲げて総合計画を立てたときの夢というのは何であったか、そういう話を教えていた

だけたら議論の参考になる。【委員】

⇒どのように議論されたかという経過までは、手持ちの資料にはないが、「21 世紀という新しい時代を迎える中で市民との協働によって都市の個性を生かしながら豊かであたたかい福祉環境づくりと効率的で活力ある行財政運営などに努めることにより、安全で快適に住み、元気に働き、生涯にわたって学び、憩い、そして楽しむことができる世界に開かれた夢と活力あふれる元気都市を創造する」という形で将来都市像が掲げられている。【事務局】

- 20 年前はバブルの時代ではあったが、掲げている夢の内容も具体的に将来何かをするというものではなさそうなので、今回もある程度そういう方向で考えても大きな間違いはないのではないかと、個人的に思った。大事なのは重点施策と将来都市像がどう関係していくかという話なので、重点施策として具体的に何を打ち出すかという話と、それを PR するためにどういう将来都市像としてキャッチフレーズを出していくかどう兼ね合いを考えつつ、いいキャッチフレーズがあれば出すというのが適当な考えだと思う。【委員】

⇒審議会が終了するまでに何かいい案を皆様方からお出しただければ事務局としても助かるのではないかと。【委員】

- 日本の人口そのものが減少する中で、2030 年で 45 万人目標というのは転入転出も含めて、人口比率で計算した数字なのか。それとも純粋な日本人以外の方の定住も想定している数字なのか。【委員】

⇒人口ビジョンを平成 28 年度に策定しており、その時は外国人の方を積極的に呼び込んでいくという想定で将来推計はしておらず、今の東大阪市にいる人口の中でもっと出生力を高めるなどといったことを頑張るという目標値として 45 万人と設定している。【事務局】

- ここにも近大の方がたくさんお見えだが、魅力ある大学づくりをされている実績もあり、近大ブランドが定着したのもそれなりの施策を取られたと思うので、そういったものが大いに参考になるのではないかと。【委員】

- 東大阪に住みたいと思ってもらうためには、他では得られない徹底して突出した施策なり、打ち出し方というのが必要。それがないと逆にイメージとして残らない。それを何にするのかというのを議論すべきであり、そこが一番大事なところだと思う。人、モノ、カネをどこか突出したものに重点的に使っていくということが必要だと思う。【委員】

⇒まさに選んでもらえる都市になるためには突出した施策が必要だと思っており、今後 10 年間、人口も減ってきてという状況も踏まえて、特

にこういうことに力を入れていきたいというところを、次の案件の重点施策の方針というところで具体的にご説明させていただきたい。【事務局】

- 夢について、野田市長が優等生でない計画にしてほしいと一番初めに述べていたので、そこにヒントがある。現実を見て取り組むことが大事。近大で成功しているのは、広報の力だと思う。ガツンとしたものがあればいいと思う。【委員】
- 学力の点について、0～6歳の子どもを持つ人たちが転出するのは、今の小中学校の学力の状況を踏まえ、先を見越して、入学後に転校させるのはかわいそうだという親の考えがあると思う。【委員】
- アンケートの自由記述の中で、東大阪市の小学校は夏休みの宿題の任意提出が多く、量が少ないという意見があった。そういった点からも学力の向上を目指すべきだと思う。【委員】
- 先ほど別の委員から、十数年前は生徒が荒れていて課外活動に参加できる状況ではなかったということだが、現在もそうなのか。私の地元では工場へ課外活動として見学に行っており、課外活動を通じて東大阪の技術力を伝えることは非常に魅力的だと思う。課外活動が実際に今どうなっているのかなと思った。【委員】
- 自転車のマナーが悪い。教育は何事にも基礎になることだと思う。今は実際にどういった教育でこうなっているのかを伺いたい。【委員】
 - ⇒市長は常々、すべての計画、すべての視点は学力向上に結びつくものであることが望ましいとおっしゃっているのだが、教育現場では、目の前の課題解決に翻弄されているという現実がある。【委員】
 - ⇒1つずつの課題解決は大切だが、視線を遠くに向けるとSDGsの4番目に「質の高い教育をみんなに」というゴールが設定されている。また文科省からも新たな時代の到来に向けた教育改革の方向性が示されている。その実現を目指すことが子どもたちのチャンスと夢につながると思う。東大阪市でも、例えば学校でのIT活用事業計画が次々に実行されようとしている。【委員】
 - ⇒保護者にとって、東大阪で子育てすると良い教育が受けられるという信頼感、期待感を持てる状況を作り出すことが重要。そのことを浸透させるために、大きく1点に特化し、ある種シンボライズされた形の政策を打ち出してアピールするという必要だと思う。それが子育て世帯が東大阪市に住み続けたい、あるいは転入してこのまちに住みたい、人口が増えていくという循環を生む。教育に携わる人達がそのような大変重要な役割を担っているのだという意識を持つためにも、総合計画の中

に「質の高い教育を目指す教育環境の充実」というような文言を入れていただきたい。【委員】

- 今後の東大阪市を取り巻く環境の変化で、IoT や AI、訪日外国人、SDGs と書いてあるが、これに対する内容はどこか。【委員】

⇒次の重点施策の方針、「人が集まり活気あふれるまち」の中で、例えば訪日外国人の増加とか、そういう観点で絡ませていきたいと思っている。

【事務局】

- 前回は発言したと思うが、重点施策の方針のところ、文化のまちというのは入らないのか。文化芸術審議会でもこの話が出て、その話は向こうからなかったか。【委員】

⇒文化審議会からの話は聞いている。文化のまちについて、具体的にどういう施策を打っていくのかは基本施策、市として着実に取り組むべき施策として盛り込んでいけたらと思っている。【事務局】

- 前回の総合計画のときも文化のまちについての話があったが、半ページに少し書いてあるぐらいだった。せっかく「人が集まり活気あふれるまち」となっているので、入れてもらったほうがよい。それから特に伝統文化を若い人がやらないという傾向があるので、そのためにも文化のまちというのをに入れておいてもらったほうがよい。【委員】

⇒貴重なご意見を頂戴しているので、しっかりと考えていきたい。【委員】

案件 3. 重点施策の方針について

- 重点施策の①、②、③をどういう比重でしていくのかをお聞かせ願いたい。私としては、次世代が夢を持って希望をつないで、ここに定着してまた次の子どもを作ったりしていってくれる、あるいは外から来てくれるということが一番大事なので、②を押ししたいところである。ただ、子ども中心というのは政府やほかの全国の自治体も言っているので、東大阪がどれだけ子育て世代に魅力があるかということ産官学民で何かビジョンを出せれば、夢が本当に持てる東大阪になるのではないかと思う。【委員】

⇒子どもが減っていくと東大阪を支える根幹が崩れていくことになるため、子育て世代のお子さんが東大阪で育ち、成長して東大阪に住んでいただくことが大事だということにはなると思う。今のところ重点施策3つのうちどれが重要という色づけはしていないが、非常に大事な課題であると思う。【事務局】

- 先ほども出ていたが、ごく優等生な内容かと思う。近畿大学では、18歳をターゲットに面白いことをやっていると言っている教員の方も言っていたので、

どれが一番大事なのかというところをフューチャーして尖った計画にするほうが、始めの市長のお話を踏まえるといいのではないかと思います。

【委員】

⇒ターゲットは重要だと思う。今までの市のやり方は、広く市民一般にということではあったが、これからシティプロモーションを打っていくに当たって、具体的にどこを狙っていくかが重要になると思う。総合計画を作ることがシティプロモーションを進める上で1つのツールにもなればということも考えている。東大阪市はこんなよいところだよという、施策も打ち出し方も合わせて考えていければと思う。**【事務局】**

- 重点施策の方針で、その中でも優先すべきものがあるとしたら、それを3つのうちの1番目に持ってくることは可能か。**【委員】**

⇒順番は変更可能なので、それも併せて検討させていただきたい。**【事務局】**

- 東大阪市が現在抱えている問題として税収、教育、子育て環境、犯罪の問題が出てきたが、どこかに比重を置くというよりも、今抱えている問題の中でも子育てや教育の問題にターゲットを絞ることで全体に行き渡っていくのかなと思う。

私自身も隣の奈良県に居住し、東大阪に働きに出ている。その背景にあるのは子育ての問題で、奈良を選んだ理由は子育て環境が充実しているというのが一番にあったが、逆に子育て世帯が大変多く、十分なサービスを受けられないという問題もたくさんある。そういったところを東大阪は逆に弱い部分を強みにして何か施策を打っていけば打開策も見えてくるのではないかと思った。**【委員】**

- 重点施策の方針2「若者・子育て世代に選ばれるまち」の施策の方向性で、情報発信による地域イメージの向上とあるが、外に向かってどういった情報発信の方法があるのか。

あとは隣接の市町村との協働というのも考えているのか。**【委員】**

- 学童期のお子さんを持っている世代の参画に向けての施策を何か考えているか。**【委員】**

⇒情報発信はこれまで弱い部分であったので、今後検討していきたいと考えている。また、学童期の子どもがいる方の参画や意見も引き出して施策に反映できるよう検討したい。**【事務局】**

- シティプロモーションという観点からも目に見える都市のイメージ、ビジュアルアイデンティティの統一をより図っていただきたいという要望をさせていただきたい。**【委員】**

⇒シティプロモーションは重要な施策だと思っているので、今後そういつ

た部分も充実させていきたいと考えている。【事務局】

案件4. 今後のスケジュールについて

- 質疑なし